

1次産業と手を携え、6次産業化を目指して ～株式会社スギヨの取り組み～

株式会社スギヨは、他社製品との差別化を図るため、石川県能登島(七尾市)において、農地を借り受け農業参入し、収穫した野菜を活用した新商品の開発等に取り組んでいます。



農業・開発担当の社員

株式会社スギヨの概要

設立 昭和37年

資本金 3億円

従業員 650人

事業内容 水産練製品・
加工品製造販売

農地面積 16.6ha

作付作物 キャベツ、タマネギ、
小豆、ジャガイモ等

参入を決めるにいたる経緯

本法人は、明治初年、鮮魚問屋・定置網漁業を業として発足、大正から昭和初期にかけてかまぼこ製造を始め、昭和37年に株式会社となった。商品である水産練製品の販路を全国展開する中で、大消費地に近く立地する他企業との競争に生き残るため、他社製品との差別化を図る、研究・開発型の企業を目指している。新たな商品開発するにあたり、地域の若者、社員に農業への関心と仕事への意欲・やりがいを感じてもらうため、市内の能登島地域において、特定法人貸付事業により農業に参入することになった。



借入農地(ジャガイモ)

参入を決めてから営農を開始するまで

参入にあたっては、農業に関心をもつ若者1名を農業担当として新規採用するとともに、社員3名を内部異動により配置した。当初借入農地(4.8ha)はすべて耕作放棄地で、10年以上耕作されていないなかったり、一部には樹木も生え、トラクターの刃が折れてしまうほどの石が混在している畑もあった。また、借入農地は3カ所に分散し、うち2カ所には農業用水がないため、特に定植の時期には1カ所あるポンプの水を各ほ場のタンクに移して利用するなど、水の確保に苦労した。国の「企業等農業参入支援推進事業」により農地を整備し、石川県の「たくましい担い手経営育成事業(企業参入用)」により、トラクター、作業車、収穫機、洗浄器各1台、移植機2台を備え、初期投資の軽減を図った。

なお、営農技術については営農開始から現在にいたるまで、石川県中能登農林総合事務所の普及担当の指導を受けている。



野菜カット工場(キャベツ)

このほか、ジャガイモ・さつまいもの有機栽培やネット販売、自社の食品残渣のたい肥化等の循環型農業の取り組みも開始している。

なお、借入農地の地権者等で組織された「わいわい里づくり能登島ネット」との連携や農地・水・環境保全向上対策の取組を通じ、地域住民・農業者との信頼関係の構築に努めている。

今後の農業経営の展開方向

平成23～25年を目途に、借入農地を約20haまで拡大し、イベント農場、施設農場、生産農場等の各目的に応じた農場の整備を目指している。

また、平成25年以降には、事業及び地域貢献の広域化を目指すため、奥能登地域での更なる農地の借入等を計画している。



イベント農場

記載内容は平成21年8月時点の聞き取りによる